

事後評価シート

事業名	道路事業	事業課名	道路建設課
箇所名	国道327号 岩屋戸工区・石原工区	市町村名	椎葉村
事業費	15,162百万円	事業期間	H4～H25
		評価実施年月	平成29年2月

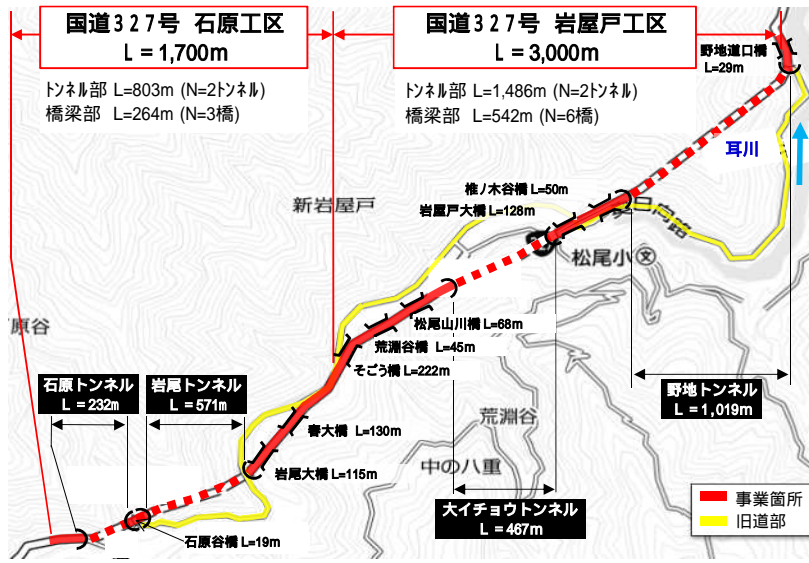
1 全体計画

国道327号岩屋戸工区 (平成4年～平成22年)
 事業費: 10,932百万円
 L=3,000m W=6.0(10.0)m (トンネル部 W=6.0(8.5)m)
 うち野地トンネルL=1,019m、大イチョウトンネルL=467m、橋梁N=6橋

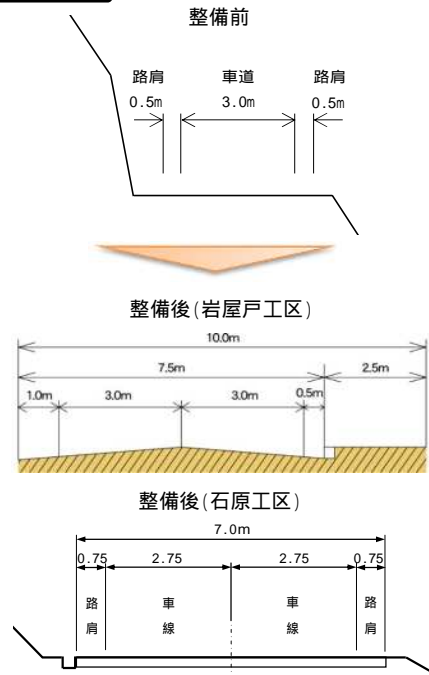
国道327号石原工区 (平成20年～平成25年)
 事業費: 4,230百万円
 L=1,700m W=5.5(7.0)m (トンネル部 W=5.5(7.0)m)
 うち石原トンネルL=232m、岩尾トンネルL=571m、橋梁N=3橋



平面図



横断面図



2 事業目的

一般国道327号は、宮崎県日向市を起点とし、美郷町、諸塚村、椎葉村を経由し熊本県山都町に至る幹線道路であり、地域の産業や経済を支援するほか、緊急輸送道路としても重要な路線である。

当工区は、椎葉村などの中山間地域と日向入郷圏域の地方拠点都市である日向市を結ぶ唯一の幹線道路であるが、連続雨量200mmの事前通行規制区間で線形が悪く幅員も狭小であることから、大型車の離合はもとより、一般車両の通行にも支障をきたしているため、安全で円滑な通行の確保を図ることを目的としている。

3 事業効果の発現状況等

事業効果 - 事前通行規制区間の解消

- ・事業工区間では平成16年～平成22年の期間で474日間（14回）の災害による全面通行止めが発生したが、事業完了後は全面通行止めがなくなった。（図1、表1）
- ・事前通行規制区間の一部が解消され、松尾地区の孤立化の不安が解消。



図1 国道327号の道路規制状況（椎葉村内）

表1 岩屋戸・石原工区における災害による全面通行止め回数（H16年～H27年）

規制内容	事業実施中							合計	完了後 H23～H27
	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22		
全面通行止め回数	3	5	1	1	2	2	-	14	発生なし
全面通行止日数	89	120	1	1	1	262	-	474	発生なし



写真1 道路被災状況(H17年災)



写真2 道路被災状況(H21年災)



写真3 通学状況(松尾小学校)

松尾小学校保護者の声

・岩屋戸バイパス開通前は、松尾地区の多くの子どもたちが道幅が狭い（4m）国道を通学しており、通学時間帯と出勤時間が重なり、大型車が通過するときなど非常に危険だった。バイパス開通後は、旧道の交通量が減少し、安全に通学できるようになりました。

事業効果 - 安全で円滑な通行の確保

- ・ 走行速度約15km/hから50km/hに向上し、スムーズな通行が確保された。(図2、写真4・5)
- ・ 落石や路肩崩壊等の不安がなく、安全・安心な通行が確保された。



図2 バイパス整備区間の所要時間の比較

バイパス整備により安全な通行が確保!! (写真4・5)



写真4 整備前と整備後の道路状況 (道路線形)



写真5 整備前と整備後の道路状況 (幅員狭小)

事業効果 - 救急医療活動の支援

- ・所要時間の短縮に加え、消防本部から松尾地区まで災害に強い道路が確保されたことにより、救急医療活動に大きく貢献している。(図3・4)



図3 救急車搬送ルート

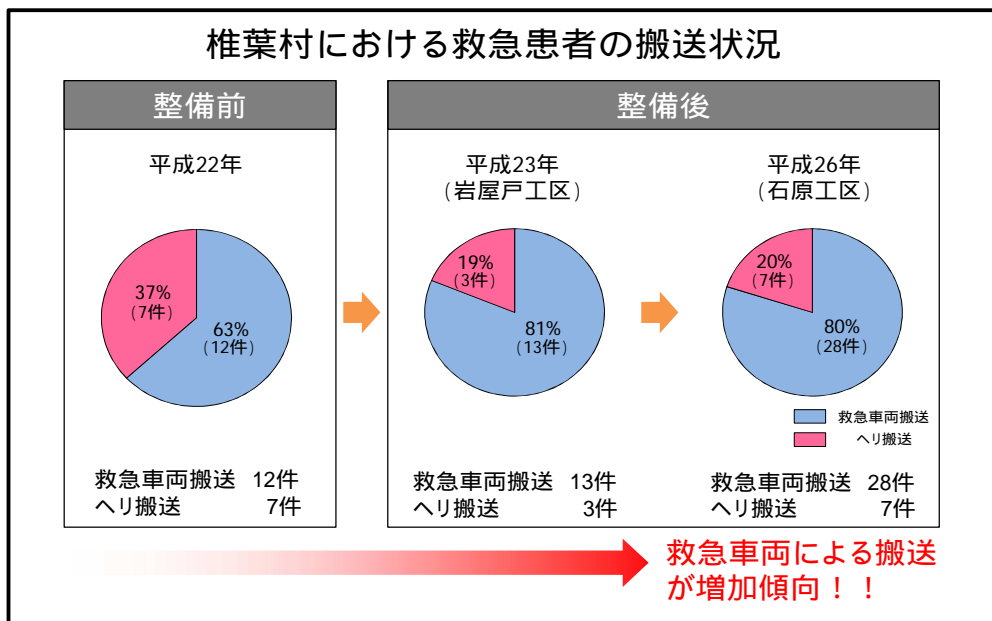


図4 椎葉村救急患者搬送回数

椎葉村消防本部の声

・整備前に比べ、救急医療・消防活動における緊急車両の搬送時間の短縮や運転に対する不安が軽減され、迅速な救急救命活動ができ、住民に対する安全・安心な暮らしの確保が図られた。

・整備前は、幅員が狭く、カーブが多かったため、緊急車両であっても離合に時間を費やしていたが、道路の整備が行われたことによりスムーズに車両が流れ、救急車両を利用した緊急搬送の体制が確保されてきた。

椎葉村国民健康保険病院の声

・整備前に比べ、道路防災面が強化され、落石・法面崩壊等の危険性が少なくなり、救急搬送車が迂回して目的地に行くことがなくなり、緊急医療体制が確保されてきていると思われる。

・椎葉の病院から日向市・延岡市方面等への転院搬送時に、時間短縮が図られ、特に急を要する患者に対して、迅速な医療の投入ができるようになった。

事業効果 - 林業への貢献

・木材の搬出において、大型車が利用できることにより、輸送コスト削減に繋がった。(図5・6)

木材運搬ルート

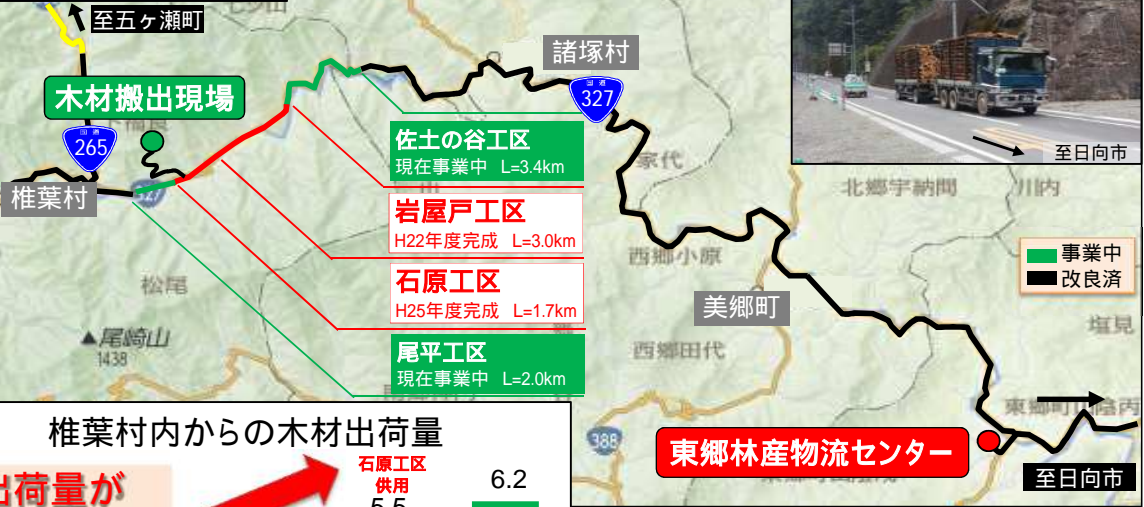


図5 木材運搬ルート

千㎡ 椎葉村内からの木材出荷量

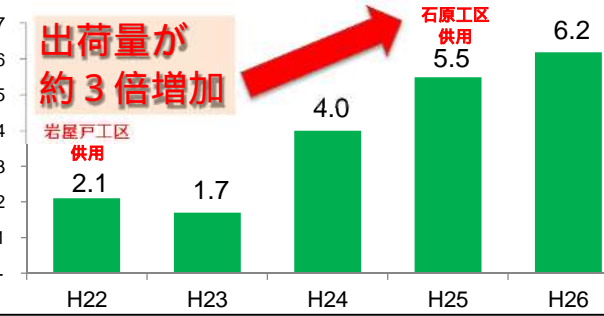


図6 椎葉村内からの木材出荷量 H27年度集計中

森林組合の声

- ・大型車による木材運搬ができるようになり、時間短縮が図られ、搬送コストの削減に繋がった。
- ・大型車の離合がスムーズになった。
- ・台風等の倒木による支障がなくなり、通行しやすくなった。

事業効果 - 観光産業への貢献

・鶴富屋敷や上椎葉ダムなどの観光地へ通じる災害に強い観光ルートが確保。(図7)

トネル開通 近づく椎葉村

無職 坂本 玲子 55

先日、祖父の年忌と墓参りで椎葉に行った。いつも国道が

が直接言えないためサイト上に書き込んだり、実際の申し込みに、別れを告げる際にメールを利用するまで、自分の口で直接伝えるべきであることもういったツールに頼ってしまっているのだ。私は同じ若者として、この現状を黙って受け入れず、見直していきたい。そして、コミュニケーションのあり方というものを習得し、同じ若者へ伝えていきたい。(日向市)

327号を行くのだが、今回は気持ちが悪かった。開通した野地トネルを通れるからだ。

以前は椎葉線は「どうか大型トラックに出会いませぬように」と思いつながら運転していた。目を凝らしてカーミラーを見るので神経が疲れ、大型車と出合ったときバックの下手な私はもう大変。「あんまり切り過ぎるとガードレールにあつかうよ」とトラックの運転手さんに言われたこともある。

が、今回は快調。伯母と二人、「ここが新しいトネルじゃね」と通り抜け、さらに「大イチョウトネル」を抜けるであっという間に松尾の集落に出た。運転の緊張もう

だ。花はぼろぼろ落ちた。結実してからも落ちた。惜しい。木が判断して落果する生理落果のようだ。それでも残

「ひとりごと」

柿の花落ちても

日本の秘境といわれる椎葉村は魅力満載の場所。これからは墓参り以外でも椎葉の良さを発見しに気軽に旅行しよう気がする。山々を覆う緑の木々が「たまには心を洗いたい」と呼んでいるような気がした。(門川町)

H23年6月14日 宮崎日日新聞記事

写真6 平家祭り(那須大八郎と鶴富姫)



写真7 鶴富屋敷

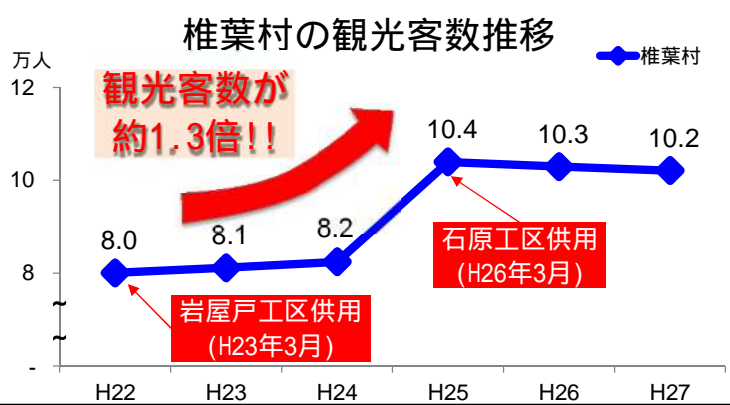


図7 椎葉村の観光客数推移

写真8 上椎葉ダム



<p>4 事業による環境の変化や環境の保全</p> <p>事業区間の4.7kmのうち、トンネル区間が約2.3km、橋梁区間が約0.8kmのバイパス工事であり、現道拡幅工事と比べ、工事による環境への負荷は軽減されており、事業による環境の変化は見られない。</p>
<p>5 施設の維持管理状況</p> <p>道路巡回パトロールや道路除草、トンネル・橋梁点検等の定期点検により適切に維持管理されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路巡回パトロール 巡回パトロールを毎日実施しており、供用以降道路施設の変状等は報告されていない。 ・トンネル点検（平成25年実施） <ul style="list-style-type: none"> 野地トンネル：健全 大イチョウトンネル：健全 岩尾トンネル：未実施（平成31年点検実施予定） 石原トンネル：未実施（平成31年点検実施予定） <p>点検未実施箇所は道路パトロール等で確認しているが、トンネルに変状等は見られていない。</p> ・橋梁点検（平成25年～平成27年実施） <ul style="list-style-type: none"> 岩屋戸工区内の6橋：健全 （そごう橋、荒淵谷橋、松尾山川橋、岩屋戸大橋、椎ノ木谷橋、野地道口橋） 石原工区内の3橋：健全 （春大橋、岩尾大橋、石原谷橋） <p>今後も長寿命化計画に基づき、トンネル・橋梁定期点検を行い、維持管理を行う。</p>
<p>6 今後の事後評価の必要性</p> <p>当該区間の整備により、円滑な交通が確保されるとともに、事前通行規制区間の解消、救急医療活動の支援などの事業効果が確認されたことから、今後の事後評価の必要性はないものと考えられる。</p>
<p>7 改善措置の必要性</p> <p>事業効果の発現状況や整備後の維持管理について、十分な効果が発揮されており、当面の改善措置の必要性はないものと考えられる。</p>
<p>8 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p> <p>当該工区は、線形不良や幅員狭小の区間の改良により安全で円滑な通行を確保するとともに、異常気象時の通行規制区間の解除など、自然災害に強い道路整備を目標に事業を実施した。</p> <p>供用後の事業効果として、異常気象による通行止めが発生しておらず、事前通行規制区間の解消も図られた。また、道路防災点検による要対策箇所の解消が図られ、道路利用者からの声より災害に強い道路整備の目標を達成することができたと考えられる。</p> <p>事業評価手法については、事業効果が発現され、改善点などが見受けられなかったことから見直しの必要性は無いと思われる。</p>